## 令和 5 年度 事業計画・運営方針・スローガン・運営計画 指定介護老人福祉施設 福寿園

		東紫計画(今和5年度、7年度)
		事業計画(令和5年度~7年度)
1	経営の安定性と利用率の確保	<ul> <li>・特養においては、利用者の健康管理の徹底による入院者数の削減、また退入居ブランク短縮と申込者を増やすための積極的なPR活動を実施する。ショートステイでは定期利用者の確保及び緊急ショートステイの積極的受け入れで稼働率の向上を目指す。</li> <li>・デイサービスは新規利用者の獲得のために利用者満足度の向上とニーズの把握に努める。また、広域利用に応えるため勤務形態面での柔軟な対応を目指す。</li> <li>・支援センターは公正、中立な立場でサービス支援することで信頼性を高めるとともに法人の経営にも配慮したマネージメントを実践していく。【特養】: 入居者 97名、ショートステイ3名、総数100名(月平均退所1.5件入院2.5件を維持するため疾病の予防と早期発見、早期治療を目指す。】</li> <li>【通所】: 1日平均利用者27名を目指す。</li> <li>【支援】: 取扱い利用者数、介護支援専門員一人当たりの平均30件を目標とし、減算に留意しながらもニーズに対応、特定事業所としての役割を果たす。また、新人育成にも力を注ぐと共に、困難事例に対応できる介護支援専門員ひとり一人のスキルアップを図る。</li> </ul>
2	無理、無駄の ない経費の削減	・サービスの質を維持しながら、無理、無駄のないコスト管理に取り組む。 ・ICT技術の導入による、ペーパーレス化や会議等の時間短縮を目指す。 ・生産性向上の観点から積極的に業務改善に取り組む。 ・備品のデータベースを作成し、効率的な管理を行う。
3	施設等の 計画的整備	【令和5年度】 ・貯水槽配電盤工事(60万円) ・スタッフルームドア設置工事(100万円) ・移乗用リフト(90万円) ・各フロア、委員会要望関係(100万) ・ノーリフト介護の導入指導料(50万) 【令和6年度】 ・A・Bフロアトイレ改修 ・ナースコール更新 ・照明器具LED化工事 【令和7年度】 ・照明器具LED化工事 ・ 屋上防水工事 ・ 中庭整備工事
4	ユニットケアにお ける個別ケアの充 実と介護の専門家 としての科学的根 拠に基づいた自立 支援介護の提供と 実践	ユニットケアにおける個別ケアの充実と科学的根拠に基づいた自立支援介護を施設サービス、在宅サービス問わずに実施する。 ・「5つのゼロ」(おむつ・骨折・胃ろう・身体拘束・褥そう)、及び「4つの自立支援」(認知症ケア・看取りケア・リハビリテーション・口腔ケア) に努める。特に看取りケアについては、ACPも踏まえ重視する。 ・ノーリフト介護の導入により、職員の腰痛と、ご利用者の廃用性症候群の予防に努める。(専門家による指導導入)・LIFEからのフィードバック活用によりPDCAサイクルを回しケアの質の向上を目指す。

		・ご入居者の口腔ケアの充実を図り、自立した日常生活を営むことができ
		るような口腔衛生管理計画を実施する。
		・褥瘡の防止とリスク管理を徹底する。
		・事故防止に向けた取り組みを推進する。
		・生産性向上を目指した研修等の受講を推進する。
		【令和5年度】
		・ユニットリーダー研修(ユニットケアの充実)
		・医療連携研修(重度者、医療依存度の高い利用者受け入れスキルの充実、
		感染対策研修、連携研修)
		・自立支援介護学会(自立支援介護の学び強化、学会発表)
		・全国老人福祉施設研究会議等での研究発表
		・専門技術研修(認知症ケア・介護技術・リーダー研修・喀痰吸引)
		<ul><li>・指導者研修(実習指導者、技術指導者研修、外国人技能実習指導者等)</li></ul>
		・テクノロジーに関する研修
		・ 資格取得支援 (実務者研修)
		・リーダー及びネクストリーダーの養成体制の強化
		・新任研修、キャリアパス対応生涯研修、専門研修(認知症、機能訓練、
		看取り、口腔ケア、医療的ケア)ユニットケア研修等適材適所にて実施
		・専門的知識の修得により、専門職としてのキャリアアップにつなげ、や
		・毎日時知識の修存により、毎日職としてのキャラアアックにつなり、や
	人材の確保、育成、 定着を目指す研修 計画の作成とやり がいのある職場作 りへの環境整備	
		に取り組む。
(5)		・プリセプター制度を用いた新人職員を通し、指導者養成に取り組む。
		・メンタルヘルスへの理解と取り組みの推進。
		・パワーハラスメント、セクシャルハラスメント対策の取り組みの推進。
		・介護職を目指す学生等の実習の受け入れを積極的に行い、介護人材の育
		成を担う。
		・国家資格等の取得に向けた研修への助成制度の活用。
		・介護福祉士等の研修、及び、認定介護福祉士取得への助成制度の活用。
		・ICT・IOT・AI機器等を活用できる職員の育成。
		・地域、町内活動への参加
		・地域福祉推進委員会、地域民生委員会との連携強化
		・地域ボランティア活動の参加(海岸清掃、町内清掃等)
		・ふれあい図書館、つなぐギャラリー、多目的ホール「きぼう」、喫茶「ゆ
		め」を地域との交流の場所として積極的に活用する。
	社会貢献活動を通して、積極的な地域との交流	・交流カフェ「一福」の開催で地域交流(新しい生活様式のもと)、地域
		のニーズの把握
		・地域参加型の行事の実施(夏祭り、長寿を祝う会、集会室活用行事等)
<b>6</b> )		・地域住民向けの認知症講座の開催「家族で治そう認知症あんしん塾」
		・地域包括ケアシステムへの参画
		・各種学校等ネットワークに関する事業の受け入れ。
		・各種ボランティアの積極的受け入れを通し、社会資源としての位置づけ
		・音性パランティアの憤慨的文の人間を通り、社会真派としての位置して   を図る。
		・災害時等の山島地区(山島台)との避難時相互協力体制の計画作成(福
		社避難所等を含む)
		・外国人技能実習生の生活環境整備、介護技能、日本語学習の援助等、技
		術移転に関する指導強化
	ı	運営方針
	法人理念のもと、	・多種多様な利用者ニーズを把握し、利用者本位、利用者満足度の高い個
1	ケアの質、暮らし	別ケアを実践しながら、利用者の身体機能の回復を目指すために、介護
	の質を保障した専	における知識、技術、実践、応用を用い、科学的介護による自立支援介
	門性の高いサービ	護を提供し、「その人らしい生活」の継続を多職種連携にて実現する。

	スの提供		また、特養の使命を自覚し、医療依存度の高い方や、低所得者及び虐待				
			ケースの対象者の保護に努める。				
			・コンプライアンスとリスクマネジメントに配慮しながら、人的、物的な				
			環境を整え、安全で安心な暮らしの質を保障する。更に認知症ケアの充				
			実と人権尊重の考え方の共有により基本的人権を侵害することなく、利				
			用者の尊厳を保持し、職業倫理をもって、社会的責任を果たす。				
			・様々な研修や勉強会に積極的に参加することで、知識、技術の習得を図				
			ると共に、研究発表などを通して、プレゼンテーション能力を養い、人				
			間力を磨き、それによって高い専門性を獲得する。				
			・人材育成に重点を置き、「人を育てる福祉」の精神をもって、法人理念				
			を実現する。特にコミュニケーション(アサーティブコミニュケーショ)				
			ン)能力の向上に努める。				
			・職場環境に配慮し、楽しく、明るい職場作りを職員自から実践しストレ				
			スがなく、安定した定着率の魅力ある職場を目指す。				
			・地域住民や利用者、家族の様々なニーズに迅速かつ的確に応えられる機				
			能を整備する。また、介護が必要になっても在宅生活が継続できるよう				
			な専門的サービスを提供する。				
	11P1+ →,	<i>1−\</i> ± <del>;</del> ;	・デイサービス事業においては、利用者のニーズの多様化に対応できるよ				
	地域ニーズ		う、介護職としての専門性を高めること、また充実した設備を生かした				
2	した在宅介	-~-	個別ケアの提供、そしてホスピタリティ豊かなサービスの提供に努め				
	ビスの提供		る。更に在宅生活の継続のためのニーズにも応えることができる事業所				
			を目指す。				
			・居宅介護支援センターでは、センターの機能を最大限に生かし、関係機				
			関との円滑な連携のもと、適切なサービスの提供に向け、公正・中立な   - ☆想から、利田老に信頼される東業所を見指す。				
	/\***	体会に	立場から、利用者に信頼される事業所を目指す。 				
	公益法人の		- 短が声声 - 公田市を田いた地域や今空でパトロールの継続				
	合わせて、地域と		・福祉車両、公用車を用いた地域安全安心パトロールの継続。   ・施設機能を発揮した活動や社会活動への参加による地域貢献。				
3	の共生をはじめと						
	する地域活動、地域貢献活動に努め		・地域行事への参加、地域住民との交流。 ・関係団体との連携を重視し、地域福祉ニーズの把握に努める。				
		に劣め	・   対保団体との連携を重視し、地域価値_一人の行旗に劣める。 				
	ବ		L スローガン				
	「明る!	ぶして	<u> </u>				
融昌			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
職員ひとりひとりの人間力を高め、良好な人間関係を築き、チームケアで安心安全な介護を提供し     ます							
より   運営計画							
		"	居者様の、人生の最終段階における医療やケアの在り方および方針につい				
			各専門職が専門性をもって、役割と連携を図り、チームで入居者様・家族				
			に寄り添い、その方の最善の方針とケアが提供できるよう支援します。				
相談部門		,	居状況を十分に把握し、退居から入居への空床期間 7 日間以内を目標に、				
	選作		かかに新入居支援を行います。				
		3. 各関係機関との信頼関係構築により、4床のショートステイ定期利用者の確					
		保と、空床および入院部屋を新規利用や緊急ショートステイで利用し、1日3					

床以上の利用を目指します。

## 1. 科学的根拠に基づいた自立支援介護の基本ケア(水、栄養、排泄、運動)を 実践します。またおむつゼロ、骨折ゼロ、胃瘻ゼロ、拘束ゼロ、褥瘡ゼロの 5つのゼロの達成に向け、認知症ケア、看取りケア、リハビリテーション、 口腔ケアの4つの自立支援ケアを軸としたサービスを提供します。 多職種が連携し入居者様に自立した日常生活を営んでいただけるように口腔 の健康保持を図ると共に口腔の状態に応じた口腔衛生管理を計画的に行いま す。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の取組みでは自己決定、尊 厳の保持、代弁により利用者様、家族様に心残りがないように終末期ケアを 提供します。また排泄コントロールの技術や経験値を高め、理論に基づいた 分析的態度でアセスメントを行います。入居者様が元の生活を取り戻せるよ うにユニットケアの利点を活かし、更に新たな生活様式の中でより安全に豊 かに行事や夢プランを実施することを目指します。 2. コンプライアンスとリスクマネジメントに配慮しながらICT・IOT・А 介護部門 I機器を活用し、ご利用者に安全で安心な暮らしを提供します。またご利用 者の尊厳を保持するため、職業倫理を行動規範とし責務を果します。LIF Eからのフィードバックを施設サービス計画に反映させることで効果的なサ ービスの提供を目指します。併せてご利用者、お一人おひとりの願う"自立" に向けた環境を整えます。 3. 研修体制に従い、リーダー層の養成に力を入れると共に専門職に必要な知識 や技術を習得しキャリアアップに繋げます。自身の更なる向上を目指し、研 究や資格取得といった自己研鑽に励みます。人に伝える力を高めるためプレ ゼンテーション技術を磨きます。プリセプター制度を導入するとともに、介 護を学ぶ全ての方々に育成的な姿勢で介護観、技能、知識を自信と誇りを持 って伝えます。SNSを活用し、魅力ある職場風土、介護、福祉の魅力を発 信します。 1. 利用者の健康維持と疾病の予防及び感染症による罹患の早期発見に努めます。 2. 施設における看取りケアに対し、個人の尊厳を保持し、家族の意思や要望に 耳を傾け、他部署との連携のもと、嘱託医から指示を受け、穏やかな終末期 を提供します。 3. 各フロア担当ナース制とし、介護部門、栄養部門と連携を密にし、利用者の 状態を把握し、科学的根拠に基づいた自立支援介護に取り組み、おむつゼロ 医務部門 の達成の継続に努めます。 4. 心の豊かさを重視した、質の高い看護を目指します。 5. 口腔衛生管理加算取得に向け、歯科医師、歯科衛生士と連携を取り、必要な 知識技術を学び実践し入居者様の健康維持に努めます。 6. 定期健康診断の実施により、職員の健康管理及びメンタルヘルスケアに取り 組みます。 1.食に関するユニット活動で楽しい食生活を実感できるように科学的根拠によ るKTバランスチャートを活用し常食移行を目指します。また「いーとみる」 を活用し経口維持を保つため水分、活動量、姿勢、咀嚼、咬合力、義歯適合な ど、充実した口腔ケアを行い摂取嚥下機能の向上を図り、常食の提供を目指し ます。 2. ミールラウンドを行い他職種によるアセスメントの評価に基づいた、栄養ケ 栄養部門 ア計画書、経口維持計画書を作成し個々の利用者に最も適した個別ケアを提供 します。 3. 給食委託会社との連携を密に取り、徹底した衛生管理のもと、質の高い美味 しい食事の提供に努めます。緊急時でも普段と変わらないお食事を提供できる ように努めます。 4. 食の楽しみに重点を置き、昔ながらのものから珍しい物や入居者様の声を大 事にした食を提供し口から食べられるように努めます。